



『空想世界をつくる
理科の教科書』
榎本 海月／著
榎本事務所／著
榎本 秋／編著
技術評論社



『物語づくりのための
黄金パターン
世界観設定編1
中国と中華風のポイント25』
榎本 秋／編著
榎本 海月／著
榎本事務所／著
DBジャパン



『物語づくりのための
黄金パターン
世界観設定編5
古代日本のポイント29
榎本 秋／編著
榎本 海月／著
榎本事務所／著
DBジャパン

物語を創作する人に向けた本でありながらも、昔の中国や日本の基礎知識、常識、現実から空想の世界へと広がる世界設定などのポイントがおさえられており、創作された作品を読むうえでもとっても役立つ本。後宮小説で言葉の意味や違いが分からなければ、そこまで重要でないからと読み飛ばしていたところの理解を深めてくれる。言うなれば、かゆいところに手が届く?ようにしてくれる本です。



『北京 中軸線上につくられたまち』于大武／作 文妹／訳 ボプラ社
『紫禁城 清朝の歴史を歩く』入江曜子／著 岩波書店
『古代中国服飾図鑑 唐代』左丘萌／著 未春／絵 黒田幸宏／翻訳 翔泳社
『中国妖怪大全』孫見坤／編 志怪社／編著 沢井メグ／訳 翔泳社

~~pick out~~



『ビジュアル日本の住まいの歴史1』 小泉和子／監修
家具道具室内史学会／著 ゆまに書房

『ビジュアル日本の服装の歴史1』 増田美子／監修・著 ゆまに書房

『日本服飾史 女性編』 井筒雅風／著 光村推古書院

『日本服飾史 男性編』 井筒雅風／著 光村推古書院

『日本の歴史 ビジュアル図鑑』 大石学／監修 学研プラス



編集後記 ティーンズレター第61号はいかがでしたか?次回は春頃にお会いしましょう。



中国の紫禁城や日本の平安京について調べはじめたら、あら?この本ちょっと気になる、でもこっちの本も写真がきれいで紹介したい…どうしようスペースが足りない!ええい全部詰め込んでれ!!の結果が↑。(コロ)



今回のテーマは後宮！かっこいい後宮どっくん描いやうんだが…あれなんか衣装復雑むすかしいかもでも元気ねはちがうね、これなんかちがうよね もはやそんな技術と氣力ないよね ほうらやっぱ無理せず季節ものが一番じゃよで出来上がったのが今回の表紙になります。(おもち)



最近の本は表紙や素材でつい手に取ってしまいます。今回紹介された本は後宮がテーマだからかどの表紙も衣装が綺麗でお気に入り。眺めているだけでも楽しいです。(メリ)



後宮で事件です！

愛と嫉妬、権力と策略が交錯する後宮で、ある日突然事件が起こる——。

誰か敵で、誰か味方なのか？美しさの裏に潜む闇に、あなたもハマるかも？



『千華宮のモブ妃』 喜咲 冬子／著 KADOKAWA

失恋の上に仕事もなし、崖っぷち漫画家の由里（32）。起死回生をかけて後宮の復讐劇を描いた新作に取り組んでいた最中で交通事故にあい…。目を覚ますとその物語のモブ妃に転生している！早々に物語からいなくなるはずのモブ妃が存在することで物語の展開は変わってしまい、ヒロインのかわりに自身で後宮の悪事を暴かなくてはいけない上に、失恋の傷も癒えぬまま恋愛まで…？由里は自分の創造を超えた展開を乗り切ることができるのか！



『呪われ皇子と茶博士の娘』 鳩見 すた／著 ポプラ社

「血眼に見られると呪われて死ぬ。」
若い頃から自分の絆目に苦しめられ、そのせいで兄も死んでしまったと思い込んでしまう朱梨。亡き両親が残した店だけは守ろうとするも養父に奪われ、自身も後宮へと送られてしまう。失意の底に沈む中、三年に一度行われる妃候補を選ぶ場で朱梨は幻国の皇子・伯飛の前で茶を入れることになり…。



『後宮食医の薬膳帖』 夢見里 龍／著 KADOKAWA

毒疫が蔓延した帝国・剋。発症者によって病状が異なるこの奇病を治療できるのは、特別な医師の一族“白澤”の血を継ぐ慧玲のみ。父・先帝の暴虐な振る舞いにより処刑寸前だったが、後宮の食医になることで刑を免れた彼女は次々に毒疫を治していく。そんな中、風水師・鳩との出会いをきっかけにフェイリンは父の死の真相に迫ることになる。（既刊4巻）



『迦国あやかし後宮譚』 シアノ／著 アルファポリス

妖が見える体質を持つ莉珠。後宮の官女になることを決意し家を出たが、なぜか官女ではなく皇帝の妃に選ばれてしまった！戸惑いながらも後宮で暮らし始めた莉珠だったが、そこにはいたるところに妖がいた。しかもどうやら皇帝と莉珠にはなにか繋がりがあるようで…。（既刊5巻）



『一華後宮料理帖』

三川 みり／著 KADOKAWA

小さな島国和国で神に捧げる食事を作っていた理子は、海を越え大帝国嵐国への貢ぎ物として後宮入りをすることに。後宮の門をくぐると、名を「雪理美」と改名されたうえ、何よりも大切な故郷の味を奪われそうになる。間一髪のところで食学博士の朱西に助けられ、理美の後宮での生活が始まった。理美は言語も食文化も違う嵐国で生き延びることはできるのか！？

（全11巻、スピンオフ作品『双花斎宮料理帖』あり）



『後宮の星詠み妃』 鈴木 しぐれ／著 アルファポリス

人の目の中に星が見え、大きさや輝きからその人物の凶兆を知ることができるのは、その能力を疎んじた家族からはいないものとされ、離れにひとり隔離されて育った。ところが18歳になったある日、父から宵子の東宮様への入内が決まったと知らされる。しかしそれは東宮様暗殺のための駒としてだ。自分に穏やかな笑顔を向けてくる東宮様に宵子の決意は揺らいでいく。



『後宮一番の悪女』 柚原 テイル／著 KADOKAWA

地味顔に悩んでいた琳麗が自ら開発した化粧品は、都で人気商品となっていた。しかし、商売に夢中の彼女の嫁入りを心配した父親によって、後宮に入るに…。皇帝は、寵愛を求める度胸と賢さを持つ琳麗を気に入り、後宮から出す代わりに後宮一番の大悪女をやらないかと持ち掛ける。（既刊3巻）



『後宮女官の事件簿』 藍川 竜樹／著 光文社

捕り物大好きな皇帝(男)が女装して護衛の女武官として後宮に乗り込む！？後宮におかれた女たちの不正を取り締まる組織、宮正司に属する女官螢雪は、国の法を司る部署、刑部の長を務める祖父より内密に後宮に潜入する御年27の皇帝のお守りを命じられてしまう。ではまずは化粧直しから始めましょうか。（既刊4巻）



『絶華の契り』 安崎 依代／著 KADOKAWA

『絶華の契り』それは呪術師同士が言葉の力を以て交わした約定であり、その誓約を破ることは死を以てしても許されず、相手に必ず約定を履行させる効力を持つ——。6年間呪術師養成所で主席の座を競い合った紅珠と涼は卒業の日、あることを賭けて決闘した。結果は紅珠の惨敗。ところが涼は勝ち逃げしたままその場から消え去り以来行方不明に。その後、宮廷呪術師協会「明仙連」で活躍していた紅珠のもとにある呼び出しかかったのだが…。

